

宇都宮市立瑞穂台小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と答えた児童の割合は100%で、学ぶことの大切さを感じながら学習している児童が多いことが分かる。

○「自分は家族の大切な一員である。」についての肯定的割合は100%だった。また「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」についても肯定的割合が93.3%と高く、児童が自分に自信をもち、家庭での自己肯定感が高まっていることが分かる。

●朝食や早寝早起きについての質問では、県平均より肯定的回答が低かった。特に朝食に関しては2.8ポイント、早寝早起きに関しては3.3ポイント低かった。

●家庭学習について、宿題には92%の児童が面白目に取り組むことができる。「学校の宿題は、自分のためになっている」と答えた児童は97.3%で、宿題の意義を理解して取り組んでいることが分かる。反面、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習復習をしている」と答えた児童は約50%～60%にとどまる。このことから、自主的に学習する習慣は十分に身に付いているとは言えないと考えられる。今後の指導として、宿題の他に自主学習を推進し、自分が調べたいことをまとめたり、授業の復習などを行ったりする習慣づけをする。また、児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう家庭と連携を図りながら支援する。

●「人と話すことは楽しい」と回答した児童は97.3%と非常に多いが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」という質問の肯定的回答割合は61.3%であった。このことから、自分の考えをまとめたり表現したりすることに自信がなかったり、苦手だと感じたりする児童が多いことが分かる。今後、授業の中で自分の考えを書いたり、小グループで意見を交換したりする言語活動の場面を意図的に設け、思考力や発表力を高められるような授業を展開していく。